



Child  
hood

100

学ぶ楽しさ 思い切り感じて

～佐世保ステーション保育園～

佐世保市白南風町の認定こども園・佐世保ステーション保育園(吉田勝利園長)にお邪魔すると、3歳児クラスでは塗り絵やビーズ遊びが行われ、4～5歳児クラスでは「漢字遊び」が始まった。

先生は「花咲か爺(じい)さん」の話に合わせて「昔」、「お爺さん」など漢字仮名交じりのカードを次々と並べ、園児たちはその文字を見ながら話に耳を傾ける。話が終わると全員でカードを読む練習をして「枯れ木に何が咲いた？」などのクイズに大喜び。その後1枚ずつカードを見せると、驚くべきことに園児たちはもう文字を読めるようになっていた。目をきらきらと輝かせ、正解のたびに歓声を上げ、まさに全身で学びを楽しんでいるといった様子。

これは現時点で漢字を習得しようという意図ではなく、遊びの中で学ぶことの楽しさを実感し、学習の基礎となる意欲や集中力を養おうとするもの。小学校入学を見据えて、年中・年長園児を中心に行っている。

元気いっぱい答えていた小山露輝(ろき)くん(6)は「漢字たくさん読めたよ」、宮下華咲(はく)ちゃん(5)は「何回も手を挙げて頑張ったよ」と話してくれた。

社会福祉法人 蓮華園

認定こども園

佐世保ステーション保育園

佐世保市白南風町1-16 ☎0956-20-0900

<http://www.1717sakura.com/station.htm/>

2017.4

＼長崎短大生／の  
よかところ探しの旅

食べよう! 佐世保の魚

～子ども向けに工夫した魚料理～



マルマサ水産の岩井実社長

「魚離れ」が進んでいる今、成長期の子どもたちに栄養豊富な魚をもっと食べて、大好きになってもらうにはどうしたらいいか。佐世保魚市場(相浦町)で営業する水産物仲卸業者、マルマサ水産で岩井実(いわいみのる)社長(58)に話を聞いた。

同市場で水揚げされている魚介類は約200種類で、一番多いのがアジ。水揚げ量が年々減少している中、約3分の2は東京や名古屋に出荷され、地元で消費するのは約3分の1だという。核家族化が進み、家庭で魚をさばくことや食卓に魚料理が並ぶことが少ないので、子どもが魚を食べる機会が減ったと、岩井社長は指摘した。

その上で、「子どもは大人と一緒に新鮮な魚を食べていると魚料理が好きになって、食卓に魚料理が並ぶ回数が増えるのではないかな。子どもには旬のおいしい魚を食べさせたい。」と語った。

春はマダイ、メバル、アサリ、アジ、ホタテなどが旬を迎え、おいしくなる季節。そこで私たちは、新鮮な地元の魚を使った料理「鯛の唐揚げ」を考えた。スーパーで買える魚で骨も少なく、子どもが手づかみでパクパク食べられる。



鯛の唐揚げ

「鯛の唐揚げ」(2人前)

作り方

- ① 鯛の切り身(200g)を一口大に切り、塩(5g)を振る。
- ② 下味がついたら片栗粉(10g)をまぶす。
- ③ 180℃の油で約5分、きつね色になるまで揚げる。
- ④ お好みでレモンをかける。



しゃんて おさかな たべるよ!

私たちが取材しました!!

将来、保育士を目指している私たちは保育所や家庭で地元の魚を子どもたちにもっと食べてほしいと思います。そのためには、日常的に大人たちが家庭で旬の魚料理を作ること、新鮮な魚を食べることが大事だと感じました。

戸田 成美(19)、中島 実結(19)、中野 嘉子(19)、水谷 華穂(19)、井上 なぎさ(20)  
いずれも長崎短期大学保育学科保育専攻1年

富永 雅也  
白十字会理事長



コラム 病気を進行させない医療⑤

「認知症の人を市民が支える」

認知症になっても、住み慣れた地域で自分らしく笑顔で暮らすために



助けを求められたら市民も動きまわります。サポートしようと寄り合いサロンや見守り活動が生まれ、認知症サポーターは急増しました。人口約13万人の街に約1割のサポーターが生まれ、約4千人の認知症の方が自分ではできないことをサポーターしてもらいながら自宅で生活を続けています。もはやサポーターではなく、パートナーの関係です。

「認知症の人だから何もできない」と思っていた人々は「世の中とつながってほしい」というこの患者さんの思いを感じ取り、「普通の人のね」「仲間に加わらないか」と卓球サークルや富士登山に誘いました。この活動を報道で知った同市の認知症患者さんは自宅に閉じこもることをやめ、認知症であることを自ら明かし、その思いを語る人が続出しました。

「これは市民の協力を得るしかない」と判断し、この患者さんに地区や学校の集まりに向いて直接気持ちを伝えてもらいました。当時は異例のことでした。

「この患者さんの真意を聞いた市の職員は、」

富士宮市での取り組み

2015年11月15日放送のNHKスペシャル「認知症革命第2回」最後まで、その人らしく」では、市民が自発的に活動する静岡

富士宮市の取り組みが紹介されました。市民運動のきっかけになったのは、ある若

年性の認知症患者さん(男性)が記憶力障害により会社を退職になった後、市役所に「自

分はこれまでと同じように誰かの役に立ちたい」と相談に行ったことでした。

社会医療法人財団 白十字会